

全学共通教育「日本語」・「日本事情」・「国際交流の扉を拓く」

1. 概要：

今年度の共通教育日本語・日本事情には外国人学部学生や交換留学生の受講があった。外国人留学生の日本語レベル向上を目指したクラスや外国人留学生と地域の人たちや子どもたち、日本人学生がともに学ぶクラスなどを提供し、バラエティーにとんだ授業を開講した。

どの授業でも外国人留学生の日本語のレベルに大きな幅があり、授業内容の柔軟な対応が必要だった。交換留学の期間が10月～9月のため、前後期とも開講当初は学生に対してのオリエンテーションが必須であった。

2. コーディネーター：橋本 智

3. 実施概要：日本語 1～8、日本事情：日本事情Ⅰ～Ⅳ

平成25年度共通教育「日本語」「日本事情」では以下のクラスを開講した。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2					
3・4			日本事情 Ⅰ・Ⅱ	日本事情 Ⅲ・Ⅳ	
5・6					
7・8	日本語 1・2	日本語 7・8			
9・10	日本語 3・4	日本語 5・6			

前期：日本語 1・3・5・7、日本事情Ⅰ・Ⅲ、後期：日本語 2・4・6・8 日本事情Ⅱ・Ⅳ

日本語 1 前期

- ・ 担当者： 遠藤 かおり
- ・ 受講人数： 9名（中国7名、ベトナム1名、マレーシア1名）
- ・ 使用教材： 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』
石黒 圭・筒井千絵 スリーエーネットワーク
他適宜プリント配布
- ・ 概要： 本コースは、日本語の基礎力補強クラスと位置づけ、大学で要求される日本語での表現力の強化を目指した。四技能のうち、「書く」ことを主とし、日本語の基本的な構造に深くかかわる文法項目の見直しと強化を行った。授業を通して、誤解

を与えない正確な表現力と語彙力の強化をも行い、実際の授業や講義・ゼミにおいて、身につけた日本語力で自ら発信ができる基盤固めを行った。授業は、数回書かせた課題作文を元に不注意なミスや不適切な表現を取り上げ、問題の意識化を図ることでさらなるレベルアップを図った。

日本語 2 後期

- ・ 担当者： 遠藤 かおり
- ・ 受講人数： 7名（中国4名、アイルランド2名、スウェーデン1名）
- ・ 使用教材： 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』
石黒 圭・筒井千絵 スリーエーネットワーク
他適宜プリント配布
- ・ 概要： 本コースは、日本語の基礎力補強クラスと位置づけ、大学で要求される日本語での表現力の強化を目指した。アカデミックジャパニーズ（レポート・小論文を書く、プレゼンテーションをする）の基礎となる部分の習得であり、身近なテーマから、描写表現や自らの思考を表現する訓練をした。その過程で、自分でも気づかずに使用していた日本語の見直しをし、問題を意識化することでレベルアップを図り、関連教科への橋渡しとした。そのため、他のクラスにおいてスムーズな活動の遂行や論理的な文構成ができることを念頭において行った。

日本語 3 前期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 6名（中国5名、ラオス1名）
- ・ 使用教材： 日本経済新聞、アジア人財資金構想事業共通教材、「しごとの日本語・ビジネスマナー編」釜淵優子 アルク、他
- ・ 概要： 「日本で働く」ことをトピックに、総合的な日本語レベル向上を目標とした。就職活動時や日本の企業で働くときに求められる日本語の習得を目指した。就活の時期、履歴書やビジネスでの手紙の書き方、ビジネスマナー、面接の練習などを行った。
加えて、毎時日経新聞の最新記事を読み、ビジネス用語に慣

れるとともに最新のニュースの理解を図った。

日本語 4 後期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 6名（中国4名、ベトナム1名、アイルランド1名）
- ・ 使用教材： 日本経済新聞、アジア人財資金構想事業共通教材、「ロールプレイで学ぶビジネス日本語」村野節子 スリーエーネットワーク、他
- ・ 概要： ビジネス日本語という切り口で、就職活動時や日本の企業で働くときに求められる日本語の習得を目指した。当初は日本語3に続く形で、ビジネス場面での会話、日本人の考え方やそれに基づく行動様式などを取り上げる予定だった。しかし、履修学生が全員代わったので、前期の内容を扱いつつ、学生のレベルに合わせた教材やビデオなどの視覚教材を使用した。日経新聞の読解も行った。

日本語 5 前期

- ・ 担当者： 大石 寧子
- ・ 受講人数： 6名（中国5名、ラオス1名、）
- ・ 使用教材： 「大学・大学院 留学生の日本語 - 論文読解編」アカデミック・ジャパニーズ研究会 アルク、論文、新聞・雑誌の記事、広告 他
- ・ 概要： 大学生活においてレポート・論文は勿論のこと、様々な文章を書く機会が多い。そのための表現力（語彙力・文法力・文章構成力）を身につける。その基礎として異なったタイプの文章の読解演習を入口として、「読む」能力を向上させると共にそれを支える「書く、話す、聞く」の四技能全てを伸ばす様々なタスクをピアワークを通して行った。最終的には自分の思いや考えを短い文の中で最も的確に表現する手段として①自国または母国の大学②徳島大学③徳島の3つのキャッチコピーを作成し、発表した。



日本語 6 後期

- ・ 担当者： 大石 寧子
- ・ 人数： 5 名（中国 3 名、アイルランド 1 名、スウェーデン 1 名）
- ・ 使用教材： 「ピアで学ぶ大学生活の日本語表現」大島弥生他 ひつじ書房、「日本語 E メールの書き方」築 晶子他 The Japan Times 他
- ・ 概要： 大学生活で必要な「小論文作成」を最終目標とした。論文の書き方の前に、短い文の中に必要最低限の情報を盛り込む練習として「メールの書き方」を学習した。お願い・誘い・お詫び・断りなどについて、作成上のルール、構成、添付方法などを学び、宿題の提出を実際にメール添付の形で毎回実施した。その後小論文の作成を目標とし、マッピングやピアワークでテーマを決め、それ以降も受講者同士や日本人学生とのピアレスポンスを通して論点の絞り込みを行い、書き進めていった。またデータの 1 つとして、アンケートの作成・アンケートの取り方・集計・分析のしかたも学習した。2 名が最終提出に至らなかった。小論文のタイトルは以下のようである。

- ① 祝休日の自転車での旅行
- ② アニメは悪くない
- ③ なぜ日本の女性は、寒くなっても薄着をするのか
- ④ 日本人の読書習慣
- ⑤ 「かわいい」という言葉の使い方

* ④⑤の最終版は未提出

日本語 7 前期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 6 名（中国 3 名、スウェーデン 1 名、マレーシア 1 名、ラオス 1 名）
- ・ 使用教材： 「講義を聞く技術」産業能率大学出版部、「聴解・発表ワークブック」犬飼康弘 スリーエーネットワーク、他
- ・ 概要： 大学生として適切な日本語能力を身に着けることを目標とした。ノートテイキングの仕方、話し言葉での音の変化、普通

体と丁寧体の変換の練習などを扱い、日本語での授業・講義を正しく聞き、適切にノートを取り、テストに向けて準備をする練習を行った。同時に基礎的な日本語能力を向上させるため、カタカナ語彙や擬態語擬音語の習得も図った。

日本語 8 後期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 7名（中国3名、スウェーデン2名、アイルランド2名）
- ・ 使用教材： 「中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話」清水崇文 スリーエーネットワーク、「やってみればおもしろい！大学生のための日本語再発見ドリル」旺文社 他
- ・ 概要： 日本で日本人と円滑なコミュニケーションをとるスキルを養うため、許可を求めたり依頼をしたりするときに使うフレーズやストラテジーを学んだ。また、学生の日本語の基礎力を上げるため、大学生活で目にする漢字や擬態語擬音語などの習得を行った。

日本事情 I 前期

- ・ 担当者： 三隅 友子
- ・ 受講人数： 10名（中国6名、モンゴル2名、ラオス1名、ベトナム1名）
- ・ 使用教材： 「日本語の書き方」森山卓郎著 岩波ジュニア新書
適宜プリント教材を配布
- ・ 概要： NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。この「視点・論点」は国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説している番組である。この生教材から専門家の提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルについて考えることを学習の目的とした。さらに授業内では、また日本人学生及び社会人との協同学習の場を設け、日本人への提言作成に関してはグループワークによって、問題設定-調査-意見交換-最終課題の作成発表会を行った。「日本人への提言」の各テーマは以下のとおりである。

- ① 日本人学生の留学
- ② 3.11
- ③ こだわりのある日本人
- ④ 日本人の集団意識
- ⑤ 忘れない！日本料理
- ⑥ 日本人と信頼感
- ⑦ 日本で感じたこと
- ⑧ 日本の夫婦
- ⑨ 日本語の面白さ
- ⑩ 今、異文化交流から学ぶ-私の出会った日本人



受講者の一人がこの講義を通して作成したスピーチによって
徳島県外国人弁論大会（2013.7.15）にて優勝した。

日本事情Ⅱ 後期

- ・ 担当者： 三隅 友子
- ・ 受講人数： 10名（中国4名、アイルランド2名、スウェーデン2名、ベトナム1名、ラオス1名）
- ・ 概要： 徳島の象徴の1つである「吉野川」の新しい側面を通して徳島を知ると同時に自国や故郷についても考えてみる。国土交通省から入手した資料から徳島を地理的に知ることや NPO 法人新町川を守る会のメンバーの講義から、川と共に生きること私たちにできるボランティア活動とは何かを考えた。最終パフォーマンスとして、美馬市脇町劇場オデオン座にて「しまひき鬼」という異文化理解をテーマとした演劇活動を行った。



今期も、学内の共通教育にて開講授業「異文化交流体験から何を学ぶのか」（日本人学生 55 名、留学生 2 名）と連携し、何回か合同の活動を行った。

日本事情Ⅲ 前期

- ・ 担当者： 大石 寧子
- ・ 受講人数： 8名（中国6名、ラオス1名、スウェーデン1名）
- ・ 使用教材： 適宜プリント配付
- ・ 概要： 「日本・徳島を知る－『子供の遊び』を通して」をテーマとした。日本と自国の遊びを調査し、共通点や異なる点を考察し、「自国の遊び」は、その遊び方について説明書を作成した。また徳島県教育委員会との連携の下、県内の小学校の「国際理解教育」の支援を行った。「各国の遊び」を児童が体験するだけでなく、各国紹介や各国の学校文化紹介、各国の挨拶などをパッケージ化し、前期は2校で実施した。そのうちの1校では留学生出身国の外国人児童も中心メンバーとなって行った。今期の後半は、学生サポーターが遊びの説明書作成や小学校訪問に関して留学生とペアになり活動を行った。

7月04日 徳島市内町小学校

7月18日 阿南市桑野小学校

日本事情Ⅳ 後期

- ・ 担当者： 大石 寧子
- ・ 受講人数： 9名（中国3名、マレーシア1名、ベトナム1名、ラオス1名、スウェーデン1名、イギリス1名、アイルランド1名）
- ・ 概要： 後期は「日本・徳島を知る－『日本の小学校教育制度』を通して」をテーマとし、日本の学校制度・小学校制度や規則・教科・授業時間や休み・課外活動・給食や掃除・親の係わりなどについて学校文化も含めて分担し、調査・発表を行った。また教育委員会主事による「日本と徳島の学校を理解するために」の講座を受講した。前期と同様に教育委員会との連携で2校の小学校へ行き、日本事情Ⅲと同様の「国際理解教育のた



めのパッケージ」を提供した。児童・留学生・日本人学生（学生サポーター）が、それぞれの立場で「異文化」について体験し、考え、協働を行った。

1月14日 名西郡神山町 神領小学校

1月24日 徳島市 昭和小学校

共通教育 共創型学習「国際交流の扉を拓く」後期

- ・ コーディネーター：大石 寧子
- ・ 担当者： 大石 寧子、橋本 智、金 成海
- ・ 受講人数： 14名（日本人学生9名、留学生4名、社会人1名）
- ・ 概要： 私達のまわりの「文化」を日本人と外国人との視点からとらえ直す。受講者の対話を通して「文化」・「交流」とは何かを考える。①国際交流とは、②異文化理解とは、③共に生きるとは、をテーマに「異文化コミュニケーション」「日本語と異文化理解」「留学生事情」をはじめ、様々な視点から講義及び体験学習を行った。授業日程及び各回の内容は、以下の表の通りである。

回数	実施日	担当者	テーマ・内容
1	10月2日	大石（1）	オリエンテーション
2	10月9日	橋本（1）	
3	10月16日	金（1）	徳島大学の留学生事情
4	10月23日	橋本（2）	異文化理解の理論と考え方 自分と異なる背景を持つ人-外国人だけでなく自分の周りにいる人たち-を理解し、同時に自分の考えを正確に伝えるにはどうすればいいのかを、異文化理解の理論をもとに考える
5	10月30日	橋本（3）	
6	11月6日	橋本（4）	
7	11月13日	橋本（5）	
8	11月20日	橋本（6）	
9	11月27日	橋本（7）	
10	12月4日	大石（2）	自文化を知る&異文化を知る 日本人学生・留学生・社会人が小グループになって、ディスカッション・発表を行う ・異文化理解の道具としての言語の役割 ・日本語教育現場での事例 など
11	12月11日	大石（3）	
12	12月18日	大石（4）	
13	1月8日	大石（5）	
14	1月22日	大石（6）	
15	1月29日	大石（7）	
16	2月5日	大石（8）	後半の振り返り